員受け入れに関わった調査団長の山木昇氏は「研修員が学んだ成果の足跡が見えた。一過性の事業で終わらせず、可能な限り技術指導は続けたい」と話していた。

滝川市では、調査団の報告内容を検討し、今後も可能な限りの協力を続けることとしている。

（滝川市総務部企画課交流推進係）

バンダ農業大学を表敬訪問

寒冷地の土木、道路維持技術を中央アジアへ

◀北見市の例▶

北見市がJICA研修コースを開設するきっかけになったのは、平成９年、北見市が北海道の「国際協力推進モデル地域」に指定されたことで、それを受けて市、北見工業大学や関連機関が「北見国際技術協力推進会議」を設立した。これは具体的には、JICAなどとの連携で地元の技術を活用して国際貢献をしようというもので、平成11年度から実施している。

冬期の寒冷な気候に対応した道路改良技術などインフラ整備を研修するコース「積雪寒冷地の社会基盤工学」の開設は北見市ならではのもので、北見工業大学の研究室の協力で地盤工学、コンクリート工学、土木計画など現場の技術を、また市役所では生活環境、上下水道の維持・管理、廃棄物処理・管理などの講義を受けたり、現場視察を行うなどのプログラムを擁するコースとなっている。これまで、キルギス、ウズベキスタン、カザフスタンからのJICA研修員が参加して、北見市内の道路改修で地盤改良工事の状況などを視察するなど成果を上げている。

道路改良工事の現場で

北見工業大学研究室で

コンクリート製品工場で研修

受け入れた市側では最初はいろいろとまどった点もあったというが、「協力できたことはもとより研修員に喜ばれることが嬉しい」と話している。またコース開設など次第に慣れてきたという。

（北見市企画部国際交流主幹・談）

去る２月19日に滝川市で開かれた「マラウイ共和国農業調査団報告会」では、「滝川で学んだことがマラウイで浸透し、農民たちが生産性を高めようと熱心に取り組んでいる」と研修受け入れの成果を喜ぶ報告が相次いだ。

世界とのつながりが密接になっている今日、市民が直接こうした国際協力事業に参加し地元の技術が開発途上国の発展に役立つのを実感することは郷土に対する誇りや愛着にもつながっていくようだ。

道内の国際協力関連イベントの情報をお届けします！

北方圏センター国際協力部では、国際協力情報収集提供事業の一環として、国際協力関連イベントの情報をメールにて、お送りしています。メールの配信をご希望の方は、お名前（フリガナ）とメールアドレスを、国際協力部宛にご連絡下さい。

国際協力部メールアドレス：intc@nrc. or. jp